



田原本町の文化財に指定



田原本村割付

種別	有形文化財（古文書）
名称	「小林家文書」
所有者	小林敏良
点数	1,132点
時代	桃山～昭和時代

近世の古文書「小林家文書」1,132点

つげたり

附 諸書物入木箱（天保8年）1点



附 諸書物入木箱

所有者	小林敏良
点数	1点
時代	江戸時代

町教育委員会は、小林敏良さん所有の「小林家文書」1132点、附諸書物入木箱1点を町文化財保護審議会の答申を受け、指定しました。

町指定の文化財は、町にとってその歴史や文化を理解するために欠くことのできない、かつ、将来の文化の向上発展の基礎となるものです。

今月号では、指定を受けた文化財の概要を紹介します。

問 文化財保存課 ☎ 32・4404

小林家に、江戸時代から明治時代の村方文書を中心に1132点もの文書が伝存

小林家が所在する「小室」は、田原本村の「本郷」にあたる集落であり、小林家は、江戸時代から明治前期にかけて、同村の庄屋や年寄、戸長や副戸長をつとめた家柄でした。その関係で、小林家には当該期の村方文書を中心に、若干の私文書も含まれて1132点もの文書が伝存しています。

小林家文書のなかで最も古い年代の文書は、文禄4年（1595）の「大和国十市郡田原本御検地帳」(写)

小林家文書の一部を紹介します

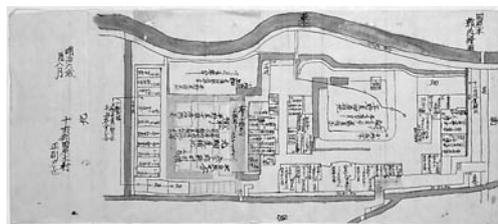
大和国十市郡田原本御検地帳（写）



文禄4年（1595）、大和で実施された太閤検地のうち、田原本村における土地台帳が「大和国十市郡田原本御検地帳」です。

この検地帳は本帳ではなく、江戸時代の写しです。しかしその内容からは文禄4年当時における田原本村の土地割や石高などが読み取れ、およそ530石であったことがわかっています。数ある小林家文書の中で最も古い時代の資料という点も特筆できます。

田原本郭内絵図（左が北）



明治6年（1873）の年号が残る、平野氏陣屋跡を描いた絵図です。寺川から水を引き込む水路や屋敷地などの土地割が明瞭に書き込まれており、当時の士族居住地を知るうえで大変貴重な資料です。

陣屋跡は、現在の田原本町役場の南側になります。役場建設時の発掘調査では絵図どおりに屋敷地を区画する堀が確認され、その信頼性を裏付けています。

講演会中止のお知らせ

県民日より奈良11月号に掲載の「田原本町指定文化財『小林家文書』指定記念講演会」は諸事情のため、中止します。

皆さんには、ご迷惑をお掛けしますが、ご了承をお願いします。

であり、これによれば、当時村内には「小室」と薬田寺の周辺と中世城館の周辺にそれぞれ集落が存在していたことが判明します。

江戸時代から明治時代にかけて

田原本村は、商取引の拠点となる

この文禄4年（1595）から田原本村は、「賤ヶ岳の七本槍」として有名な平野長泰の領地となりましたが、慶長7年（1602）に長泰が教行寺を誘致したことに伴い、寺内町が形成されるようになりました。

その後、村内の町場は、二代長勝の入部と陣屋の建設（慶安元年〔1648〕に完成）、正保4年（1647）の教行寺の退去に伴つ

て、旗本平野氏（交代寄合）の陣屋町に衣替えしながら、拡大・発展するようになっていきました。

中街道が村内を南北に貫通し、今里浜にも近かった当村は、奈良盆地中央部における交通や流通の要衝にあたっており、17世紀半ば以降には、人々の往来や商取引の盛行に伴って、さらに地域経済圏の中心地として、また遠隔地取引や中継取引の拠点として、大きな役割を果たすことになりました。

小林家文書が注目される

5つのポイント

小林家文書について、第一に注目されるのは、こうした特色を有する

田原本村の、太閤検地時点での集落の存在形態やその後の町場の形成・発展過程、町方のあり方や村方との関係などがうかがえる貴重な文書が伝存していることです。

第二に注目されるのは、旗本平野氏（明治元年〔1868〕からは大名）の領地支配の拠点となっていた陣屋を描いた絵図や、廃藩置県後の郭内地の処分、秩禄処分に関する文書が見られることです。

第三に注目されるのは、村方に關する文書が、江戸時代を中心に豊富に存在していることです。その内容は、土地・租税・村政・戸口・水利・産業・金融・民衆運動・習俗・寺社など、多くの分野にわたっており、田原本村の様相を明らかにするうえ

で、不可欠な文書群といえます。

第四に注目されるのは、廃藩置県後、明治10年代前半にかけての行政のあり方や当村の様子がうかがえる文書も、かなり存在していることです。

第五に注目されるのは、村の様子を視覚的に捉えることができる絵図類が多く存在していることです。そのほとんどは小字図ですが、元禄17年（1704）と明治15年（1882）のそれは全村図です。なかでも詳細な前者は貴重で、今後の活用が期待されます。

小林家文書は田原本の歴史を解き明かすうえで不可欠な文書群

以上のように、小林家文書は、本町の中心地である田原本の歴史を解き明かすうえで不可欠な文書群として高い価値を有しており、町指定文化財として一括指定しました。